

専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

「卒業してからの私

私は、専攻科福祉専攻 18 回生の日柴喜ゆいです。

私は、愛知県三河青い鳥医療療育センター に支援員(介護)の仕事だけでなく保育士としても勤務しています。

最近、子どもたちはコロナ感染者が増えてきたため外泊ができなくなってしまい、子どもたちもストレスが溜まり、トラブルが増える予感がします。

その中で、優しく子どもたちの気持ちを受け止められるようにしていかなければならないと考えています。またお休みの日には季節ごとの行事をしたり、映画をみたり準備をしています。

落ち込む日もありましたが、「ゆいちゃん」って子どもたちが毎朝扉まで迎えに来てくれるので頑張っています。

子どもたちから一番年齢が近いので、いろいろな相談もされ、中学生の男の子から『相棒』って呼ばれてます。

専攻科福祉専攻の思い出は、毎日が思い出です。よく、喋り、よく、笑い、食べたり、寝たり、その繰り返しでした。いろんな所に行きました。特に、難病の子どもキャンプでは、かき氷担当で、長い列に並ぶ子ども達の楽しげな顔が今でも忘れられません。専攻科福祉専攻は、自分の居場所があり、第2のお家のような感じでした。

幼児教育・保育科と専攻科福祉専攻を卒業して良かったことは、まずは、コミュカ(コミュニケーション能力)が up したことです。自分の言動を客観的に捉えることができるようになりました。また、障害の方への偏見もなくなったこと、障害は、周りの環境のあり方が、大切であること等の障害の捉え方です。

専攻科福祉専攻に入学するきっかけは、祖父の死でしたが、死についても、死に向かう時間こそ向き合える時間であることを学び、また後悔することがないような行動がとれるようになったかな?と思っています。

最後になる在校生は、私達と違い、コロナ禍の中で色んな活動制限を受けているかと思いますが、先生方が一番寂しい思いをしていると思いますので、楽しい時間を一緒に創って欲しいと願います。

最後に専攻科福祉専攻で過ごした1年は最高な時間でした。たくさんの方の経験させてくれてありがとうございました。

大好きです。

2022年3月

18回生 日柴喜ゆい